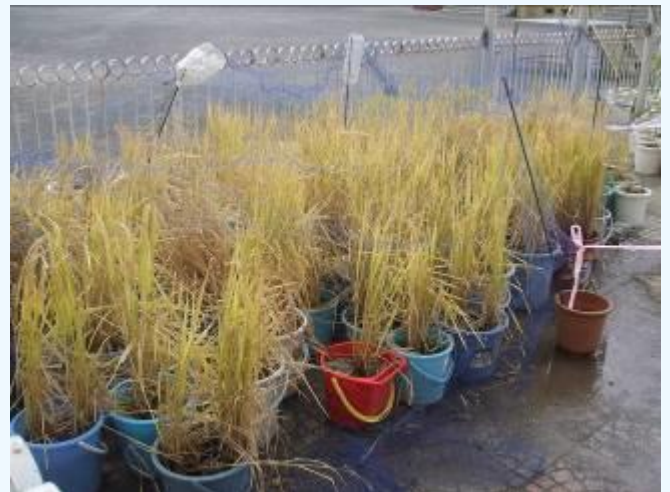


テーマ：『 科学好きの子どもを育てるための学校環境の整備 』

横浜市立 汲沢小学校

Tel. 045-864-8698 担当者： 山口 高弘



■実践内容:

汲沢小学校では、子どもたちにさらに「なぜ?」「どうして?」といった自然への関心や科学的な興味をさらにもてるような環境を提示していくことが必要であると考える。学校の片隅にあるビオトープを整備し、黒めだかやギンヤンマのヤゴなどが育成できる環境を整えたり、教室でめだかや金魚を観察・飼育することができるように水槽などを整備したりした。また、5年生の学習で、プランターやバケツを利用してお米や野菜などの栽培方法など地域の方々と一緒に活動した。さらに理科室にて休み時間などに子どもたちが「不思議だな?」「どうして?」と思えるようなサイエンス・コンタクトコーナーを設置し、子どもたちが自分の手で器具を操作したり疑問を教師と一緒に考えたりすることができるようにした。

■実践成果:

学校のビオトープに生息しているヤゴを捕まえてトンボにしたり、黒めだかをすくい教室で育てたりして自分たちの周りに棲む生き物の存在を感じることができた。そのことを生かして理科の学習に意欲的に取り組む児童の姿を見ることができた。また、サイエンス・コーナーを通して月の表面を観察したり、皆既日食に興味をもったりする児童もでてきた。この実践を通して、自らの周りの不思議を感じ、自ら問題解決をしようとする児童の育成に大きくかかわることができたと考える。

■実践ポイント:

児童自らが「なぜ?」「どうして?」と感じるができるように、日常的に生物や実験器具などに触れることができるようにした。また、理科の得意な先生方がサイエンス・コーナーなどで児童の質問や疑問に耳を傾けたり、一緒に考えたり実験・観察などができるような場を作っていた。これにより、児童一人ひとりがもっている素朴な疑問を明らかにし、それを追及することや明らかにする楽しさを味あわせていくことができたと考える。